介護の現場から　その48

地震を想定した訓練

池幸園業務副主任・防火管理者
福祉住環境コーディネーター　小林　政志

明治27年10月、死者726人を数え、まさに古今未曾有の大惨事となった庄内地震から113年が経過しています。

庄内地方の地震年表には、およそ100年に1度、マグニチュード7クラスの地震の発生が記されています。

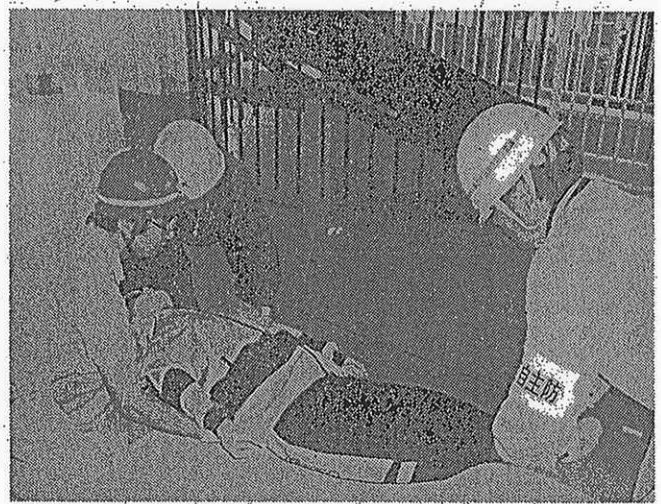
近年では、庄内平野東縁断層帯においての直下型地震の発生が懸念されています。緊急地震速報等の開発、研究も進んでいますが、いまだに予知することが難しいのが現実です。

池幸園は、平成2年4月に市街地の中心地に3階建ての特別養護老人ホーム（特養ホーム）として開設されました。

当時の特養ホームは、回廊式の平屋建てが主流を占める中で、県内では例のない多層階の介護施設の建設に大きな障害になったのが、防災上の問題でした。この懸念を克服するために全館にスプリンクラー設備を導入、3階から2階へのらせん型すべり台や2階から1階へのスロープの設置、住居スペースの2階と3階には、ベッドのまま避難できる幅1・4㍍のワイドなベランダを設けています。

最近では、AED（自動体外式除細動器）やエアテント（チューブ膨張式）、300食の非常食や発電機も配備し、本体施設より離れた事業所には、災害時優先携帯電話の設置等、物的には充実していますが、これらの装備を使いこなすのは施設のスタッフにほかなりません。

地域と一緒に体制強化を



そのため、年2回の総合防災訓練をはじめとし、夜間想定訓練、緊急連絡網による夜間招集訓練、防災研修会、鶴岡市の総合防災訓練への参加等を実施し、スタッフの防災意識の高揚と知識や技術の習得に努めています。

秋の総合防災訓練（地震を想定）には、近隣町内会の防災担当者も参加、負傷者の搬出に協力していただきました。これからも、地域住民の皆さまとのお互いの協力体制と役割分担を確認し、地域と一緒になった防災体制の強化を図っていきたいと思います。

秋には毎年、地震発生を想定した総合防災訓練を実施しています

また、庄内地区の22施設の特養ホームとの防災ネットワークも完成し、施設間での応援と協力体制が確立されています。

阪神・淡路大震災の教訓から社会福祉施設の役割として、災害時に通常の避難所では生活が、しにくい要援護者を一時的に受け入れる福祉避難所の指定に向けて、池幸園としても取り組むことが、今後の課題です。

過去の災害を教訓として、有事の際に的確に対応し、万一の災害であっても被害を最小限におさえることが、施設に課せられた任務とし、安全と安心を提供する介護施設を目指して頑張っていきます。

†

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載予定。